

天体望遠鏡第13回公演（東京公演） 台本
チャンピオン達の朝食〜10年の眠りから目覚めた男とその周辺のいくつかのエピソード〜

◎登場人物

男…千田秀幸

妻（記者、ネコ1）…女ヶ沢康子

娘（記者）…清水みゆき

弟（記者、ネコ2）…小野智明

パパ（ネコ3）…石渡大地

ネコ…昆野麗南

男1…川辺健

作演出…川辺健

舞台監督…東隆幸

照明…工藤雅弘

音響（オペ）…川辺智子

製作…澤田綾香

◎あらまし

0. 朝食

1. 起床

2. 診察

3. 会議

4. 会見

5. 昼食

6. 編集①

7. 昔話①②

8. 編集②

9. 寿司

10. 捨猫

11. 期限

12. 寸劇

13. 会食

14. 睡眠

15. チャンピオンたちの朝食

舞台は、室内のダイニング、男が眠るベット、それ以外の3つの空間

客入れラスト後暗転

軍艦マーチが流れる

暗転中に男、娘、ネコ、舞台上に登場

0 朝食―未来―

娘、ネコ登場

テーブルに座り娘が朝食（シリアル）を食べている
足元にはネコがいる。

奥から母の声 早く食べちゃいなさいよ…

奥からパパの声 アレ、この間買った靴下どこだっけ？

母の声 クローゼットの上見た？

パパの声 あった…今日雨かな？

母の声 知らない、テレビ見たら

パパの声 そうだね…

母の声 美代子、学校行くときそのはがき出してくれない

娘 いいよ（娘のスプーンが奇妙に曲がっているので
食べにくそうに見える）

ネコ ニャー

娘、ネコにシリアルを分け与える。スプーンでシリアルを食べようとすが、断念し、皿を持ち一気に食べる。

ネコ ニャー

軍艦マーチが高らかと鳴る

娘、ネコ退場

暗転

1. 起床

誰もいない室内

男 点滴の付いた体をバタつかせ起き上がる。寝グセ頭 仙人のような白いひげ、パジャマ姿

男 うん？

しばらく辺りを見回すが、状況が飲み込めない様子点滴につらされた豆もやしをみつけ

男 もやして…(ベットから出ようとするが体が痛む様子) イッー

間

男 おお、何だ、何だ、ぼーとしてた。腹減った

ゆっくりと起き上がり台所へ。

室内にあるカップ麺を空け、ポットのお湯を注ぐ

男 (具材を見て)お召し上がりの直前に入れて下さい、(別の具材)お召し上がりの…(別の具材)お召し上がり…あああああん(全部今すぐ入れる)あと、何か食いもんねーか(奥へ退場)

妻の声 ただいま(登場)カップ麺？美世子だめじゃない、ご飯前の前でしょう、太るぞ、太るぞ、あとね、これお召し上がりの直前に入れて下さいって書いてるでしょう…：：：そうしない麺がほぐれないのもうぐどれどれ(味見しようとする)

男 (コック帽を被り持ち登場) え！

妻 キ、キヤー、キヤー、キヤー、キヤッー

男 し、し、し、しー！

妻 あんた誰！

男 いや、誰っつうか…

妻 もしかして、かわいいコックさん？

男 (かわいいコックさんの顔真似をするが)違っよ、似てねえーし

妻 じゃ誰！

男 いや、誰っつうか…

妻 (カップ麺の割り箸を持ち男を威嚇する)

男 いやいやいや、そういうのじゃないから。研ぐな！割り箸を研ぐな！危ないか

妻 じゃ誰！一体何が目的、体？体？嫌だあたし昨日お風呂入ってない

男 いやだからなんっつか、寝てて起きて、今？

妻 寝ててどこで！

男 どこって、そこ…。(ベットを指す)

妻 そこって…

男 お前、恵子か！恵子じゃん、老けたなお前、どうしたの、ええ

！

妻 起きたって…起きたの！

男 うん

妻 ヒー(気絶するす)

男 (妻を抱え)おおおお…(テーブルの椅子に座らせる)

娘の声 ただいま

男 また誰か来たし…(奥に退場)

娘 (登場し)あれ、ママ？どうしたの

男 やあ！

娘 (爆笑)

男 何がおかしいの？

娘 誰？

男 だから、誰っていうか？

娘 かわいいコックさん？

男 (顔真似) ってなんだこのくだり…

娘 じゃ誰！(割り箸で構える)

男 いやいやいや、だから

娘 すー、すー、すー(研ぐ)

男 研ぐな！尖らせるな！危ないから

娘 (笑顔で)誰？

男 その笑顔怖い…だから誰って言うか、寝ててさ

娘 寝ててって…どこで！

男 ベットで

娘 あのベット？

男 うん

娘 起きたの！

男 うん

娘 ヒー(気絶する)

男 おおおおお、えええ(抱えて椅子に座らせる)もう何だこれ

弟の声 こんばんは、こんばんは！姉さん、みーちゃん、いないの？

男 またかよ（退場）

弟の声 （登場）玄関のチャイム…あれ、いるじゃん、どうしたの…

男 （コック帽を取り払い）どうも…

弟 ヒー（気絶）

男 はえーよ！（抱きかかえ）えーなにこれ…っーか、お前…

照明変化

効果音

男、ベットへ戻り布団をかぶる

2. 診察

弟、目を覚ます

照明変化

弟 うん？あれ…姉さん、みーちゃん、起きて、大丈夫？

妻 （起きて）キヤー、キヤーキヤー、キヤー！

弟 姉さん、姉さん、違う違う、オレ、ヒロシ

妻 ヒロシさん、え…

弟 近くまで来たから…みーちゃんも大丈夫

娘 おじちゃん

弟 そうそう、ヒロシおじちゃんだよ、大丈夫？

妻 あいつは？

弟 誰？

妻 なんでもない、どうしたんだろ私、おかしな幻を

弟 「あいつ」だよねオレ見た

娘 うん…

弟 みんな？いやーびっくりしたよね、腰抜けたもん、あんなの急に…まさかね…

弟・妻 あははははははは…

弟 いないよね、亡霊だよね…

弟・妻 あははははははは…

妻　でも…確認しない？
弟　いいよ…する？
妻・娘　うん

3人恐る恐るベットのへ向かい、布団をはがすと男が寝ている。

3人　ほー

男　かー（おもちゃの包丁を持ち起き上がる）

3人、ばらばらに飛び散り、ふるえる

3人　ワナワナ…ワナワナ

男　何々？ワナワナって、何だお前らそのリアクション、寒いのか？あ、いいね君その笑顔　最高…でも誰？ま、いいや、何々どうしたお前ら、これおもちゃだぞ

弟　兄さん？本当に兄さん…！

男　そつだよお前の兄貴だよ、しかし、老けたなヒロ、恵子も、どした、小ぶりの玉手箱開けちゃった…ま、いいや、恵子メシ、腹減っちゃって

間

男　どうしたお前ら…変だぞ

弟　姉さん、高木さんに電話して

妻　はい

男　え？

弟　早く！

男　誰？

妻　もしもし、あなた、来て、いいから助けて、わかった
弟　来るって？

妻　うん

男　誰かくんの…ま、なんでもいいや、とにかくメシ！腹減っちゃって死にそ

妻　（奥へ）

弟　兄さん

男　何だよ

弟　本当に兄さんだよ

男　あたりめーじゃん…恵子ビールもな！

弟　じゃあ本当に兄さんだったこと証明して

男　何だそれ、証明も何も俺は俺だよ

弟 でもさ

男 でももへちまもねえよ、なんださつきから…て研ぐな君、笑顔で研ぐな

弟 何も覚えてないの？

男 何もっつうかなあー

妻 (麦茶のペットボトルとかき。Pーを持ち登場し、男の前に置く)

男 注げよ、つうかビールつったじゃん

妻 (手が震え、麦茶がかなりこぼれる)

男 ちよよよよよ、ちよ、もったいねーじゃん、いいよ俺やるよ…しかし、本当老けたなお前ら、一気に10才くらい老けたんじゃね…

弟 ああ…

男 どうし

た？

妻 そう

男 ええ？

妻 10才老けたよ

男 何だそれ…

弟 兄さんの言うとおおり 僕らは全員10才年を取った

男 だから冗談だって

弟 本当の話さ

間

男 え？何この空気？え？

弟 鏡見たら

男 鏡って…

3人 (一斉に各自の手鏡を出す)

男 いやいや、なんで持ってたんの…(鏡を見る)ヒゲ！

弟 体はなんともない？

男 体？まーなんとなくだるいかな ふうくつ？うん

弟 当然だよ、だって兄さんは…

3人 10年間眠ってたんだから！

男 ブー(麦茶を吐き出す)はあ?何言ってるのお前ら、声揃えて

妻 本当

男 ええ:

妻 この子

男 え?

妻 誰だか分からない?

男 ええ

妻 美世子だよ

軍艦マーチが流れる

娘 ポケットから大きなキャンディーを出し上にかざす

男 おいおいおい、おいって!えええええ

軍艦マーチがやみ、元の場所へ戻る

男 そんなバカな話…なにシーンとしてんの、え?何この空気…あー今日あれか、びっくりパーティーか何かか?特殊メイクだろそれやるならよーもっとじじいとかばあにしてくれないとこっちもノリずらいじゃん、はい、もう降参参りました!すっかり騙された

間

男 何だよ、何か言えよ、おいって。(ピーナツを弟と妻に投げる)鬼は外!福は内!福は内!(ピーナツを全て投げつける)何か言えよ!

間

男 えええ…だつてミー子だよ、こんな小さくてアメやってりゃなんでも言うこと聞いて…えええ

娘 (笑顔で) 15才

男 聞いてねーよ、笑顔で言われても…15才?

娘 うん

男 15才ってそりゃー!5足す10は15だな、でもお前…あれこれ夢か?オレ夢みてんのか?

3人 床に散らばったピーナッツを拾い出す

男 えー、いやいやいや、えー10年眠ってたって…眠りすぎだろそれは

3人、一斉に鏡を出す

男 ひげ！

3人 (鏡をしまう)

男 わかった、わかった、じゃあ百歩譲ってお前らが正しいとしよう、な、ありえないけど俺は10年眠ってたとする、それでいいよもう、で何この空気？おかしくねーかこのテンション、なめでてーじゃねえか、10年眠り続けた俺が今日目を覚ました、おめでたじゃねーかなあ万歳！万歳！お手を拝借、万歳！やれよ！！

パパ(登場) あれ

妻 あなた

娘 パパ

男 あな？パパ？

妻 実は、これが、これで

パパ そう、ベットに運ぼう

弟と妻で男を持ち上げるベットへ

男 なんだよ、なにすんだよ！

パパ (注射器を取り出し) ちくつとします (刺す)

男 すー(寝る)

パパ (特に診察もせず) とりあえず問題ないよだけど明日病院で精密検査を

妻 お願い

4. 会議①

娘 ふふふ
妻 美世子！
娘 ふふふ（退場）

妻 （いたたまれず退場）

弟 どうもすみません…こんな事になって

パパ いや、ヒロシさんが謝ることじゃないですよ

弟 でも

パパ 本当はいつ目が覚めてもおかしくなかったわけだし、そもそもどうして目が覚めないのか、現代の医学では説明できなかったんだから

弟 でもなんで今頃…本当無責任なんですよ昔から、周りに迷惑ばっかかけて、平気な顔して、忘れてました、あの人の性格、10年経ってもなんにも変わってない

妻 （登場しみかんを配る）はあーどうしよう…

弟 もうなんかいきなりすぎてわけわかんないね

妻 ごめん…

パパ 恵子が謝ることじゃないよ

妻 でも…なんで今頃、本当無責任なの人の昔から、周りに迷惑ばかりかけて、平気な顔して

弟 姉さん、それさっき言った、全く同じこと

妻 そう…じゃ以下同文

妻 はあー

妻・弟 はあー

妻・弟・パパ はあー、どうしよう

男 てやんで、ばーろー、ちくしょう

妻 何？ちび太？

男 てやんで、ばーろー、ちくしょう、てやんで、ばーろー、ちくしょう、てやんで、ばーろー、ちくしょう、てやんで、ばーろー、ちくしょう

パパ まずい、発作だ！

3人ベットへ

パパ みんな抑えて！（注射器を取り出し）今度は目に…！！

男 やめろよ！やめろ！離れるバカ野郎！放せ！いいから放せ！そして離れる！

3人何事もなく離れ椅子に座る

男 目ってなんだよ、死んじやうよ俺、聞こえてんだよ全部聞こえてんの…さっきから聞いてりやなんだ情けねー、わかったよ、大体现状理解したよ、10年か何年か知らねーけど、結構な時間眠ってたわけだ俺は

3人 うんうん

男 で、今日、目を覚ましたと

3人 うんうん

男 つまり眠りっぱなしだったわけだ、眠り姫みてーなもんだ、なあ

3人 うんうん？

男 めでてーじゃねーか、おめでたじゃねーか、せーの、万歳！ってやれよ！何、違うの？10年眠り続けた男が、ようやく目を覚ましました、奇跡が起きました、せーの、万歳！ってあれ？万歳なしよ？

3人 うんうん…

男 う、と、ただで済ますな喋れ！なあ、横井さんじゃん、横井さんみてーなもんじゃんオレは、で、その横井さんが帰ってきました、はずかしながら帰って来ました、そんな横井さん迎える家族がどうしようってなんだ、ため息とかねーだろ、グれるぞ、横井さんグレて高速逆走するぞ

弟 そういえば横井さん今なにしているんだろ？

妻 ゲートボールとかしてるのかな？

妻 パパ 風邪とかひいてないよね

妻 季節の変わり目だしね…

3人 横井さん、お元気ですか？

男 合わせんな！盛り上がんな横井さんで、違うだろう、オレの話！10年眠り続けた男が、ベットの中でもがき苦しみ続けた男がようやく目を覚ましました！生還しました！わかるな、せーの、万歳！

3人 (反応なし)

男 ええええ！

弟 (立ち上がり男をビンタ) いい加減にしるよ

男 えええええ…

弟 あんたはただ寝ただけだろ、その間姉さんがどれだけ苦労したか…10年だよ、ただ眠ってる男の面倒をみてきたんだ、その大変さがわかる？

男 そりゃ

弟 わかるはずないよ、何が万歳だよ、何がおめでただよ、誰もそんな気分じゃないの、はっきり言つてね

妻 ヒロシさん！いいから

弟 でも

男 なんだよヒロシ、言いたいことあんなら言えよ！

弟 ああ言つてやるよ

妻 ヒロシさん！（頬を叩く仕草）

弟 姉さん…(頬をさする)

男 叩けよ…リアルで行こう！いや痛くない、痛くない、だって叩いてないし…

パパ 取りあえず今日は休みませんか…みんな突然のことで、ねえ…明日から精密検査もしますし

妻 …そうね

弟 わかりました

(帰る感じ)

男 おうおうおう、その前にひとつだけいいか

パパ はい？

男 あんた誰？

パパ え

男 名前なんつーの

パパ 高木です

男 じゃ下の名前は、あなたか？ 高木あなたってんだ？

パパ いいえ

男 あれ、おかしいな、空耳か、お前さっきこいつのことあなたって呼ばなかったか

弟 兄さん！

男 じゃあれか、高木パパだ、そうだろ

パパ いいえ

男 あれあれ、聞き間違えか？あ、そうかも、10年も眠っていると耳垢とかな…

パパ 聞き間違いではないと思います

男 ほう

妻 とりあえず帰って

パパ でも

妻 いいから、帰って、ヒロシさんも

弟、パパ退場

男 なんだこれ…

妻 10年経ったの

男 だからって…だからってよく

妻 (ため息)

男 またため息かよ

妻 何？

男 そんなにあれか、オレ起きたらあれか

妻 なんか疲れちゃったの、わかるでしょう

男 わかんねえよ、全然わかんない

妻 話さなきゃいけないこと沢山あるけど、明日でいい

男 ……

妻 じゃおやすみ

男 おやすみか

妻 なに

男 オレは眠ねーぞ、もう絶対眠ねーぞ！何だよそれ…目つぶって起きたら10年って…あなたって好きにして（退場）

男 （テーブルをける）痛ってー（退場）

4. 会見

別空間

パパ （白衣を着て登場）

記者2 Ⅱ娘 3 Ⅱ弟 トレンチコートを着て登場

記者3 Aさんの容体に変化は？

パパ いたって正常です

記者2 10年間昏睡状態だったという話ですが

パパ 簡単に言うただだ眠っていたという方が正しいかもしれません

記者2 そんな事が本当にありうるんでしょうか？

パパ あったとしか申し上げられません

記者3 なぜ今日を覚ましたんでしょうか？

パパ 現在調査中です

記者2 Aさんの奥様と高木先生が婚約中との情報があります
が

パパ 個人的なご質問にはノーコメントで

記者3 その場合、Aさんの立場は？

パパ ノーコメント

記者3 先生の立場は？

パパ ノーコメント

記者2 最後に教えて下さい、Aさんが再び眠ってしまう可能性は？

パパ …わかりません

パパ、記者、退場

5. 昼食

男 (カップ麺を持ち登場) その件に関してはノーコメントで…公造さんそれ聞きますよ、ノーコメントで…違うな、ノー！コメント！ノーコメント！これで行こう、ノーコメ…

娘 (いつのまにか登場し男の背後にいる) 何してんの？

男 おおおお、帰ってのか、言えよ…早えーな、半どん？

娘 (ニコニコ)

男 ま、いいや、飯食うかな、一人じゃ味気ねーしよ (奥へ行き、カップ麺を持って登場)
座れよ…

娘 (その場に座る)

男 そこ！椅子、椅子

娘 (椅子へ)

男 いたか？

娘 何が？

男 何がって、マスコミ！公造！

娘 何で？

男 何でって、おれ！時の人、あいつら本当ハイエナだな、怖い

娘 誰もいなかったよ

男 まさか、(外を見る) あれ、いねーな、人っ子一人いねーな、なんで？

娘 さあ

男 だって先週なんかすごかったぞ、ワイドショー、おれがゴミ屋敷かって…あれ？はえーなあ、いつから驚いちゃうね…はああ、10年か…

娘 (ほほえみ)

男 ありがとう、お前だけよ

娘 何が？

男 そうやってオレに笑ってくれんのはさ

娘 そう？

男 そうだよ、薄情なんだよ、あいつら、居座ったネコでも見る目でよ、嫌だね…そこ来るとお前全然違うもん…な、オレのこと覚えてる？

娘 あんまり…

男 だよな、こんな小さかったんだもん、15才か…人生の2/3、オレいねーもんな、寝てて…おまけ、パ
パできちゃってるしな…

娘 ふふふ

男 　しかし癒されるはその「笑顔」恵子もよ、オレとであった頃なんか、かわいかったよ、パート
笑顔が…歳月は怖いね人をかえるね

娘 　ママも笑うよ。パパの前では…

男 　グサ！グサグサグサ！言うねお前も、笑顔で…

娘 　ねえ

男 　なんだ

娘 　聞いてもいい？

男 　なんでも聞けよ

娘 　（笑顔）

男 　どうした？

娘 　いいや

男 　なんだよなんでもいいぞ

娘 　（笑顔）

男 　学校は楽しいか？

娘 　ふふふ

男 　楽しいなその顔は、いいことだ…好きな奴とかいんの？

娘 　（ニコニコ）

男 　いるな…このやろう、あのミー子かな…そうか、そうか、何部のキャプテン？ま、いいや…そう
だ、聞いたことあるか、オレとお母さんの馴れ初め…

娘 　ない

男 　ないの？じゃいい機会だ、教えてやる

娘 　いいよ

男 　聞けよ、聞いて、お願い

娘 　いいよ

男 　かれこれ20年くらい前だな、今もあんのかな？駅前のアークード、歩天？

娘 　ないんじゃない

男 　ないか、その当時はあったんだよ歩天、週末になるもうナウなヤングでこったがいしてな何か
売ったり、広げたり、パフォーマンスだ、ソイヤソイヤだもう、でオレも芸を披露してたわけ！

娘 　何だと思う

男 　別に

娘 　別になってなんだよ、何だと思う

男 　わかんないよ

娘 　つまんねーなお前も…

弟 　（男の過去役で登場し）スプーン曲げます！（スプーンを床に広げていく）

男 　そう、スプーン曲げだ！目の前にずらっと一先割れスプーンからカレースプーンから、いろんな
スプーン並べてよ

弟、あなたの選んだスプーン曲げます！

男 受けたね、異彩を放ったね…そこへ来たのが、恵子、お母さんだ…

妻 (当時の様子で登場)

男 むっさい格好してな、同人誌なんか売ってたなあれな

妻 どんなスプーンでも曲げられますか？

男 でオレは一言

弟 もちろんですとも

男 ですともとか言っちゃったもん、マジシャン気取りで若かった

妻 じゃ、これ！

男 オレは恵子が指差したスプーンを取りゆっくり念じたするとスプーンが曲がる

妻 凄い凄い、え、え、すごい

男 食いついたね、周りが引く位食いついたね

妻 どうやるんですかそれ

弟 お嬢さん、それは鳥に飛び方を聞くようなものです、蝉に鳴き方をたずねるようなものです
妻 ふーん

弟 あのつまりですね

妻 じゃこれは

弟 これですね…

妻 これも、これも、これも！

男 恵子はあるだけのスプーンを指差しおれは曲げた

弟、妻 (退場)

男 翌日なんかくらくらしたもん、念力の使い過ぎで…それがオレとあいつの出会いだ

娘 ふーん

男 ふうーんって、お前スプーン曲げ知らないな、本物見たことないから感動が伝わんないな…見してやる、本物みしてやる(食器棚を探し)あれ、スプーンどこだ?どこにあんの?しらねーか?

娘 これは曲がる?(ペロペロキャンディーを出す)

男 それは

軍艦マーチが流れる

(回想シーン)

男 いいかミー子、よく聞け、父さんちよっとお仕事行ってくるから、こん中で待ってる、出来るか?

娘 出来る!

男 よーし、いい子だ、そのキャンディーなめて待ってる、なめ終わる頃には戻ってくる、それまでじっとできるか?

娘 出来る!!

男 いい子だ、何も触るなよ、危ないから、危ないってわかるか

娘 死ぬこと

男 そうだ、頭いいなーお前、本当いい子だ、じゃ、行くから、待ってる、すぐ戻る、すぐ戻るから、それまで

軍艦マーチが高らかに鳴る

6. 編集①

男1 (登場)

男 (テーブルに伏せて眠っている様子…しばらくして目が覚める)ミー子?あれ…ちよちよちよちよ!何してんのあんた

男1 お目覚めですか、すみません、何度も声をかけたんですが…

男 で何

男1 私こういうものです(名刺を出す)

男 文明社…

男1 本の出版を生業としております

男 ほう

男1 10年間眠りから目覚めた男…

男 え?

男 1 え？

男 1 あ、アシカ？取材？あー困るよそういうの、アポ取ってからじゃないと

男 1 突然で失礼いたしました…で、どこまで進みました？

男 1 何が

男 1 何がって…もう…

男 1 何の話だよ

男 1 えっまだ書いてらっしやらない？

男 1 何を

男 1 他所の出版社はまだ来ていない？

男 1 だから何がだよ

男 1 小説です

男 1 小説？何だそれ

男 1 それでは単刀直入に、田中さん、いえ、先生、我文明社と独占契約を結んでいただけませ

んか

男 1 何契約って、何の？

男 1 先生、あなたはご自身の価値について考えたことはありますか

男 1 価値って

男 1 現在出版業界大変な不況でございます。やれいじめだ、やれ障害だ、やれヤンキーだ、そんなちっぽけなバックボーンの間人がいっぱいしの作家取りで出す小説、はいこれ全く売れませ

ん。小さいんだ、狭いんだ、そんな時です「10年の眠りから目覚めた男」これだ！私の求めていたバックボーンこれだ！うれしかった…先生、ぜひ我文明社と独占契約を…

男 1 いやいやいや先生って、契約？

男 1 先生は選ばれたお人だ、先生ほどのバックボーンを持った人間は他にいません、そんな先生が

小説を書く、はいこれ売れないわけがない、売れない理由がない、この方程式わかりますよね

男 1 うーん、まあ、オレほどの体験はないわなー

男 1 その通り、先生の物語を読者は求めている、そしてこれはビジネスになる、先生も儲かる、我々も儲かる、その上読者満足する、この方程式、わかりますよね

男 1 でもよ、ワリ俺小説とか書いたことねーし

男 1 誰だって最初は素人じゃありませんか、小説家とは職業ではなくして生き様だと私は思います、そしてその生き様、バックボーンからすると、先生はすでに小説家、ではありませんか

男 1 …だな、名前なんだっけ、菊池？菊池お前いいこと言う

男 1 先生、小説を書いてください、いえ、先生の生き様を世に問う、そのお手伝いをさせて頂けませ

んか

男 1 うん、うん

男 1 先生が今目覚められたことには意味があります、そして私が今先生とこうしていることにも意味がある、違いますか

男1 いや…

男1 よしわかった、俺も男だ、契約しよう

男1 ありがとうございます、これで我文明社、零細企業からの脱出を果たせます（携帯へ）もしもし、菊池です、やりました、落としました、編集長、打ち上げ？まだ早いまだ早い、はい、それでは…（切る）あの編集長、声裏返して…

男1 で、さ

男1 なんてでしょうか先生

男1 野暮な話だけだよ、なんつーの、ギャラ？的なもの、そういうの教えといてくれない、な、こっちは先にしといたほうがさ…

男1 勿論です、残念ながら先生の場合今はまだ無名の存在ですの原稿料といったものをお支払いすることはできません

男1 まーな、それはそうだろうな

男1 但し、本が出版されたあかつきには先生の印税収入三千万はくだらないかと…

男1 3千？

男1 足りませんか？

男1 いやいやいや

男1 確かに先生のバックボーンからすると足りないな…今編集長にかけあいます

男1 いいよいいよ、十分十分

男1 この数字はあくまで最低ラインとお考え下さい

男1 最低で？あそつゝ本って儲かんだな

男1 さ、善は急げです！（原稿用紙と万年筆を出す）この万年筆、私の祖父の形見ですが、お貸しします

男1 いいよ、そんな大事なもん

男1 いえ「先生」に使って頂きたいのです。我文明社が零細企業から飛躍する、「先生」へはそんな期待を込めています

男1 そうか、わかった！任せろ

男1 それでは一週間後に、書きあがった分だけで結構ですので

男1 よし

男1 そうだ私としたことが大事なことを

男1 どうした

男1 「先生」ひとつだけお約束して頂きたいことが

男1 何何

男1 今回の件、つまり「先生」が小説を書いているということは、誰にも話さないで頂きたいのです。特に親しい方、ご家族、ご友人には

男1 まいいけど、なんで

男1 この小説は「先生」の生き様、バックボーンが反映されてこそ、意味があり価値が生まれます。往々にして素人、ご家族やご友人が、そのことを知るや否や、アドバイスと名を変えた己の思想、意見を反映させたがるもの、私それを恐れます、純粋な原石に不純物が混じることを恐れ

ます、ですからこのことは、そうですね、本が出版されるまで、誰にも話さないで頂きたいので、す。この方程式、わかりますよね

男 だな、よくわかる、もうオレの周り陳腐でけちな野郎ばっかだかな…それ聞いてよかった
 …絶対誰にも話さねー男と男の約束だ
 男1 ありがとうございます…それでは(退場)

娘 (室内から登場) 誰か来たの

男 (原稿用紙をかたづけながら) ああちよっとオレのファンががな

娘 (ニコニコしながら) ねえ

男 うん?

娘 (ニコニコ)

男 どうした?

妻 (上着を着て登場) ただいま

娘 (無表情に変化)

妻 何してんの

男 (娘の表情の変化を察し) 娘とのほら

妻 大丈夫?

娘 (退場)
 (大げさなため息)

妻 何?

男 いいや(退場)

7. 昔話①

弟 (登場し椅子に座る) 兄さんの様子どう?

妻 昨日から部屋にこもりつきりで

弟 何か言ってたこれからのこと

妻 うんうん

弟 びしっと言わなきゃ…

妻 うん

弟 大体姉さんも姉さんだよ、何にも言っていないんでしょう?そういう曖昧な態度があいつを増長させるんだから

妻 …

弟 ピンピンしてんじゃないだって、絶対起きてから太ったよねあいつ、本当信じらんないし

妻 …

弟 姉さんが何にも言わないと思って調子乗ってんだよあいつは

妻 …

弟 ねえ、ちゃんと考えてる

妻　　じゃあどうすればいいの！（退場）
弟　　えええ…オレだって、オレだって！

別空間（娘が生まれる前の回想）

妻　　（レンズの厚い眼鏡で登場し、座る）

男　　（衣装を変化させ、茶色い袋を持ち登場）　おお、ここに居たのかよ、探したぞ、どうした

妻　　（うつ向いている）

男　　なにどうした？また仕事でミスったの？気にすんな気にすんな、嫌味言われたの？そんなの全然気にすんな

妻　　するよ

男　　なんで

妻　　あたしそういう性格だから

男　　そうなの？お前A型だもんな

妻　　Oだし

男　　Oなの！オーノー

妻　　（ため息）

男　　ため息ってお前…じゃこれ（袋からチョコレートを出す）　ほい

妻　　（見るが無反応）

男　　じゃこれ（同じチョコレートを出す）

妻　　（無反応）

男　　もうしょうがねえな（ポケットからスプーンを出し）　ほら、見てろ！（曲げる）

妻　　すごいすごいすごいすごい

男　　だろ？

妻　　私も出来るようになるかな

男　　それはどうだろなあ

妻　　どうして

男　　これはな、愛の深さみたいなんなんだな

妻　　ええ

男　　お前を笑顔にしたいっつう思いの強さがこうパワーの源だな

妻　　そうんだ

男　　そうだよ、そうに決まってるんだろ

妻　　なんで笑顔にしたいのよ

男　　そりゃくなんつうか地球への貢献みたいな

妻　　はあ

男　　こんなのに感心すんのはお前ぐらいなんだから…うん、お前を笑顔にするとだな、俺も何

かの役に立ってるみたいなの、地球の一員みたいなそんな気がして気分がいい

妻　　じゃあたしは何に貢献できるの？

男　　決まってるんだろ、オレのアシスタントだよ、パー子みたいな立ち位置だな

妻 ただ笑ってればいいの
男 まあ、最悪な

妻 じゃあそうするね
男 え？

妻 大抵そうするから、それでも無理な時はまた見せて
男 おおお、お安い御用だ、もう一本行くか？

妻 今日はいいけど

男 それそれ、その笑顔だよ、しけた面してっと、この世からスプーンが無くなっちゃうぞ、お前
妻 カレーどうやって食うんだよ、インド人怒るぞ

妻 そうだね

男 ほら中入ろう、なんたって一人の体じゃねえんだから、な

妻 うん

昔話② (室内)

男 (退場)

妻 (退場)

弟 (そわそわしている) 姉さんゴメン、オレが言い過ぎた…じゃないな。姉さんオレ殴っていいよ
今度はガチで…それもヤダな…姉さんさっきはスママセンでした (土下座)

男 (ベレー帽を被り登場) わかればよし

弟 お前かよ

男 何が！これからは俺を先生と呼べよ

弟 姉さんは？

男 知らねえよ、先生！ (ハタと気がつき帽子をしまう) 悪い、悪い今のなしな、忘れろよ (ベ
ットへ行く)

男 (ベットの上面でもらった原稿用紙を広げている)

妻 (室内に登場)

弟 姉さん！

妻 ごめんなさい

弟 謝るのこっちだよ、ごめんね、姉さんの気持ちも考えないで
妻 そうじゃないの、ゴメン、ヒロシさんから言ってもらえる？

弟 でもいいの？

妻 うん、お願い

男 何書こうかな〜うん、家族の中で虐げられた男が魔法使いの手で舞踏会に招待される、が、1
2時になって魔法が切れるもんで、慌ててガラスの雪駄を忘れちまう、いいな「タナデレラ」
あん、田中だけにな

弟 兄さん、兄さん！

男 おう何だ

弟 ちよっと話あるからこっち来てくれる

男 忙しいんだよこっちは

弟 いいから、来て

男 後にしろ

弟 いいから来い！

男 なんだよもう〜（室内へ）

男 何だ！

弟 ここ座って

男 ここ？ 床に？

弟 そつ…早く、正座！

男 （渋々座る）

弟 あんたこれからの事どう考えてんの

男 いろいろ考えてるよ

弟 はっきり言うけどさ、あんたここにいちゃいけないよ

男 何で？ オレの家だろう

弟 オレの家って…

男 そうだろうが

弟 空気読めよ、姉さんだって、本当は今頃高木さんと一緒になってるはずだったんだ

男 オレが寝てる間にか

弟 しょうがないだろ

男 何がしょうがねーんだよ

パパ （登場）遅くなりました…あれどうしてそこに？

男 ふん…

弟 いいんです

パパ その後、気分はどうですか

男 …

弟 兄さん！

男 さっきまではよかったけどな…

パパ

（書類を出し）今日ようやく検査結果が出まして…どこにも異常はみつきりませんでした、全て正

常です…つまり完全に健康体です

妻 よかった

弟 本当に

パパ はい

男 で、出てけっつ

か…

パパ いやそういう意味では

男 そう聞こえちやうなオレには「健康です」「よかった」何がよかっただよ、なんだこの茶番は、お前らオレを追い出すことしか無い訳？悲しい奴らだな…口開けばどうするだ、出てけだ、ため息だ、何だ本当、この一週間、一回でもよ「おかえり」的な言葉はないわけ？大変だった？わかるよ、でもさー血の通った人間だったら一言一言でいいよ、温かい言葉、笑顔、あったっていいんじゃない…

ミー子だけ娘だけだよ、オレにニコニコしてくれんのは、血のつながりってのは偉いね、記憶なんかなくてもさ、本能でわかっちゃう。あいつの笑顔見るとさ、癒されんもん、ああ、オレが守んなきゃって。逆にお前らという時にミー子をちゃんと見てるか？むすっとして、笑顔がな

いんだよお前らの前じゃ。緊張感丸出した。
そんな俺をどういう了見で追い出せんだお前ら。俺が寝てる間に乳くりあいやがって、世間ではそういうの不貞つうんだ。全くふてえ野郎だ！なあ、出てくんならお前らが出てけ。勝手にしろ。オレは娘と残るぞ！オレが目覚めたのにはちゃんと意味があんだ。ずっと考えてた。俺が目覚めた意味を。そうだよ娘を守るっつー目的だ、こんな恥知らずの親共から娘を守るっつうのが、真の目的だ

妻 あははは

弟 あはははは

パパ あはははは

男 あははは

妻、弟 パパの順で男をビンタする

男 何だよもう、ぶつことねーだろ

妻 何言ってるかわかってんの

男 わかってるよ

妻 美世子が楽しそう？

男 みりゃわかんだろあの笑顔

妻 あなたが美世子を守る

男 そうだ

妻 覚えてないの？本当に忘れたの？

男 何を

妻 あの日あなたが眠ってしまう前のこと

男 はあ

妻 10年前の夏

せみの鳴き声

妻 あの年は記録的な猛暑で…仕事をやめたばかりのあなたは一日中家に居て美世子の面倒を見ていた

(回想―弟Ⅱ娘、パパⅡ男になりきり寸劇)

弟 あっつー

パパ あっつー

男 なんだなんだ？

弟 しかしあっつーなミー子

パパ しかしあっつーなミー子！

弟 ミー子はお前だろ

パパ ミー子は私だ！

弟 そうだよ、お前頭いいな…俺似だな…あーつー、どっか行くか

パパ 行く！

弟 確かこの辺に…

(食器棚の辺りを探し)あった！

パパ 何、何、見せて

弟 じゃ、じゃーん(一万円を出す)

パパ 紙のお金だ！

弟 そう、子供が使っちゃいけないお金だ

パパ それどうするの

弟 増やす！

パパ 増やす！

弟 いいかミー子、お金ってのはこのまま置いといても増えない、いつか無くなっちまうだから増やす努力をしなきゃいけないえ、わかるか？

パパ わかる

弟 偉いなお前は、なんでもわかつちやう

パパ ミー子、いい子

弟 だな…よし、じゃ行くか！

妻 あなたは美世子を連れて出かけた…覚えてるでしょう

軍艦マーチが流れる

パパ、弟 舞台にあるテーブルと椅子を車内に見立てる

弟 ミー子よく聞け、父さんこれからお仕事に行ってくる。子供が来ちゃいけないお仕事だ、わかるか？

パパ わかる！

弟 よーし、いい子だ、お父さんのお仕事が終わるまで、ここでじっと出来るか？

パパ どれくらい

弟 ……そうだ、これやろう（ペロペロキャンディーを出す）お前の大好きなペロペロキャンディーだ、うれしいか

パパ うれしい

弟 それなめて、じっとして待ってる。そのキャンディーなめおわる頃には帰ってくる。出来るか

パパ できる

弟 よーしいい子だ、ゆっくりなめるんだ、味わうように、ゆっくり、そうすりやそれまでに父さんは帰ってくるな

パパ うん

弟 じゃ、行くからあれだ、絶対何にも触んなよ、危ないからな、危ないってわかるか

パパ 死ぬこと

弟 そうだ、偉くないいい子だ、じゃ、待ってる、何にも触らないで、ここでじっとして、な、出来るか

パパ 出来る

弟 いい子だ！じゃ、待ってる（退場）

妻 美世子を一人車に残して、あなたは出かけた…覚えてるでしょう

軍艦マーチが高らかになる

男 エアコン！

妻 え？

男 エアコンは付けといたぞ…だって、外はひでー暑さだ、オレたってバカじゃねー、エアコン付けて、暑くねーよーに…

妻 あの日もあなたはそう言った。美世子はあなたの言う通り何も触らず、車で待ってた、どんなに暑くても、そこに居た

男 あつーわけねーだろ！エアコン付けといたんだ、暑つーはずねー……まさか、あいついたずらして、なにやっつてんだよ

妻 エンストだったの

男 え？

妻 ガス欠でエンジンが切れたの

男 ……そんな

妻 エンジンもクーラーも切れた車の中で、あの夏、美世子はひとりぼっちで……あなたの言ういい子じゃなかったら、すぐに外へ出て、パパを探しに行ったかもしれない……う才なんだからそれくらい出来たかも知れないのに、美世子はずっとあなたを待ってた

男 そんな

パパ （室内の椅子を倒す）フィーバーフィーバーフィーバーフィーバー

男 やめろ！

妻 警備の人の発見がもう少し遅れたら、美世子危なかったかもって……そのまま救急車で運ばれて、美世子あれからしばらく入院したの

男 オレってつきりミー子がいたずらして

妻 退院して体は元に戻った、でも、感情はテレコになった

男 テレコって？

妻 人ってね、とっても怖い経験をする、心が壊れちゃうの、美世子の場合は感情がテレコにテレコってなんだよそれ

弟 感情がテレコなんだよミーちゃん

男 だからテレコって何だよ！

パパ 心と体があべこべなんです……不安で辛い時ほど外見は楽しそうに見える。楽しい時は逆に辛そうにつまらなそうに見えてしまう。感情と裏腹の表現しかできないんですミーちゃん。

男 そんな

妻 美代子の笑顔を見るたび私がどんな気持ちになるか分かる

男 そんな話

弟 あの日僕と姉さんはすぐ病院に駆けつけた……何してたんだよ兄さん！

男 ……あいついい子だから

弟 何で一人にしたんだ

男 エアコン付けて

弟 関係ないだろ、エアコンとか関係ないよ…5才だぞ、あんたどこまでバカなんだ、ミーちゃんに
もしものことがあったらどうすんだよ兄さん！

男 ミー子、オレの言うこと聞いたばっかりに…

弟 そしたら兄さんは何もしゃべらなくなって、ふて寝でもするように布団を頭からかぶって、そのまま眠り続けた…最初は逃げたんだと思った、嫌な事から逃げ出したんだと思った、でも時間が経って
ねもしかして兄さん、自分を罰しているんじゃないかってそう思えてきたのに

男 じゃ、ミー子がオレに笑ってくれたのは…

弟 怖いとか

パパ 怯えとか

妻 不安とか

男 そんな話 そんなバカな話ねーだろ！何か言えよ、何か言えよ

3人の動きが固まったまま、動かなくなる

男 テレコって…じゃあれか、ミー子がうれしくて笑うことはねーのか？おかしくて笑うことは楽
しくて笑うことはねーのか！あれからねーのか

3人固まっている

男 そんなの信じねーぞ！オレは信じねーぞ…おい！なんか言えよ、嘘だつて言えよ

3人退場

8. 編集②

男だけが、ダイニングにいる

男1 (登場) どうされました…先生！

男 おお…

男1 浮かない顔で

男 いや、いろいろあってな…あ、もう一週間か…わりまだ殆ど出来てねーん
だ

男1 まさか外野から横やりが

男 いやそういうのじゃないんだけどな…

男1 いき詰まってらっしゃる？

男 うん、なんか、なにやっつてんだろうみたいなの…むずかしいわいろ

男1 先生

男 うん？

男1 私の好きな言葉なのですが…

男 ああ

男1 神は乗り越えられる試練だけを与える

男 何それ

男1 お見受けした所、先生は今試練のただ中におられます

男 わかる？

男1 それはもうくしかしその試練苦難は決して無意味なものではありません、この世の事象は全
てあるべくして起こっております。神様は見ております。苦しみのない所に喜びもありません。そしてそれを乗り越えた先に

男 うん？

男1 (体で円のマークを表現)

男 何それ

男1 こっちでした(指で円マーク)すみません下世話なお話を

男 いや、お前の言う通りだ、なんか目が覚めた

男1 おっとこんな時間だ、次がありますので私はここで…先生、期待しております(退場)

9. 寿司

娘 (登場)

男 おお、お帰り…今日も半ドン？

娘 (ニコニコ)

男 悪い悪い、変なこと聞いたなごめんごめん…腹減ったなメシまだだろう、なんか食う
か

娘 (ペロペロキャンディーをおもむれに出す)

男 それはいい…ゴメンゴメン、たまには寿司でも取るか(反応の見

る)

娘 (無表情)

男 好きだな寿司はよしよし…並でいいか？

娘 (ニコニコ)

男 上だな、特上にしよ

娘 (無表情)

男 よしよし、電話帳は…（探し、見つける）なに寿司がいいかな…これでいいや、あれ、電話ど「
だっけ

娘 貸す？

男 電話持ってるの

娘 うん

男 そう…（借りて電話する）もしもし、中野町一丁目の田中ですけど、特上2人前、超特急で、願
いします…すぐ来るって…よしよし、寿司はいいよな…何好き？

娘 いくら

男 バブー、バブーか

娘 ふふふ（笑う）

男 ごめん、ごめん、そういうのじゃないな…違うな、これ違う

間

男 あれ、さびぬきって言わなかったな、電話しねーと、オレとしたこと
が

娘 食べれるよ

男 え？

娘 わさび好きだし

男 そうか

娘 うん

男 そっかーだよな…

間

娘 ふふふ（笑う）

男 どした？

娘 ふふふ

男 オレなんか変なこと言ったか

娘 ふふふ

男 顔怖いかな（変な顔をする）これならどうだ

娘 部屋にいる…

男 おう、だな、来たら呼ぶからお寿司だよって、特上だよってな
（退場）

男 (スプーン曲げをするときのようによく念じるが、何も起きない。辛くて、テーブルを叩く)

10. 捨猫

舞台上に大きなダンボール、その中に、ネコがいる。

男、登場

男 うん？誰だこんなところこい

ネコ ニヤー

男 え？

ネコ ニヤー(ダンボールから手足だけを出す)

男 えー何お前、ダンボール？ネコ？

ネコ (紙に書いた文字のような肉球の暗号を渡す)

男 フム、フム、フム、フムって読めねーよー何この肉球

ネコ ニヤー

男 なんだ、捨猫か？しー、しー、誰だよ、人の家の玄関に、たつく…(ダンボールを遠くにやる)

ネコ (去ろうとする男に)ニヤー、ニヤー

男 駄目駄目、家は駄目、無理だって

ネコ 一軒家だニヤー

男 喋った？ええ、ま、確かに家は一軒家だけど、駄目なもんは駄目だよ

ネコ そこをニヤントか…

男 また喋った？

ネコ ニヤー

男 違うか…つつかかわいそうだけどな、無理、もうそんな目で見られても無理

ネコ つつつつつつつつつ…

男 いやいやいやそんな泣き方されても無理よ

ネコ この日本を…命がけで…うつうつ

男 なにそれ

ネコ 選挙行っても、変われへんやろうつていつうつあああ

男 野々村議員？古いだろもう

ネコ (聞こえないポーズ)

男 バカにしてんなこの野郎

ネコ ううつ

男 だから無理だって、つーかお前何？

ネ コ (立ち上がり、男の前に立ちふさがる)

男 どけよ

ネ コ (どかない)

男 どけて

ネ コ (どかない)

男 だからよー

ネ コ (赤い頭巾を出す)

男 何、これ、どうすんの、被る？え(被る)

ネ コ たのんますよ旦那

男 喋った！本格的に喋った、なんで

ネ コ そいつのおかけですよ旦那

男 え？これ？

ネ コ きき耳頭巾ってご存知でしょう旦那

男 昔話の？

ネ コ それ的なネコ耳頭巾チックの

男 そうなんだくえー

ネ コ あでもそれ、一人に使えるのが一生で5分だけなんで、早速本題に入りましょう、旦那 あっしを拾ってやって下さい、たのんます

男 だから無理なんだって

ネ コ メシもそんなに喰らいません、でっかい図体の割りに少食だなんて、仲間からも評判のあっしでございやす。おかしなビョウキもござんせん、確かに、誰の腹から生まれたかも定かだねー、血統なんてものとは無縁の雑種のネコでございやす、が、そんじょぜこいらの野良に比べりゃー、忠義心の厚いネコでございやす、袖つり合っつてもニヤにかの縁旦那、どうかあっしを旦那の所のネコにしてやっておくんさい！どうか、どうか、どうか

男 よく喋るねお前

ネ コ 旦那、ネコは嫌いですか？

男 どっちかっつうと犬派かな

ネ コ ワン！ワン！ワン

男 ネコじゃんお前

ネ コ ワン、ワン、ニニ掘れワン！

男 昔話好きお前

ネ コ 旦那のお望みでしたら、ワンでもよっつござんす、ニヤー禁止の方向で

男 いやいやそっつう問題じゃなくて

ネ コ 社長！メイヤー！メイヤー！メイヤー！

男 おだれられてもさ…

ネコ プレジデント！イエス、ウイー、ニヤン

男 さっきら古いんだよお前

ネコ え？（聞こえない手）

男 またそれかよ、あのな今そういう状況じゃないわけ、お前オレでさえ、息殺して家ん中いるってのにお前拾ってみ「また問題起こして」とか「いい加減にして」とか言われんの目に見えてんもん

ネコ 「飯もあんまり食べません

男 だからよ…

ネコ 決まった所でトイレもします、爪なんか…切ります！深爪にしますんで

男 あのな…

ネコ 居場所がほしいんです

男 え？

ネコ ただいまって帰ったらお帰りって、今日何してた、楽しかったかって、

そんな場所が…それだけありゃあっし

男 ただいまつつたら、おかえりって？

ネコ うんうん

男 今日何してたって

ネコ うんうん

男 そんな天国みてーな場所、オレにもねえーんだよ

ネコ え

男 わりーな

ネコ じゃあ

男 うん？

ネコ じゃあ、あっしが待ってますよ！旦那が帰ったらお帰りって、ねこれならいいでしょう、おあ
いこでしょう、あっしが待ってます、ねほらほら

男 何

ネコ ただいま…って

男 え？

ネコ こいこい…

男 えええ

ネコ こいこい…

男 ……ただいま

ネコ お帰り

男 ただいま

ネコ お帰り………ただいま！

男 え？

ネコ　　そこで、お帰りって！今日何してたって、旦那の番行きま
すよ、はい、ただいま

男　　…お帰り

ネコ　　ただいま

男　　お帰り

ネコ　　ただいま

男　　お帰り

ネコ　　ただいまニヤー

男　　あれ、時間？（頭巾を取り）

ネコ　　ニヤー、ニヤー

男　　…もうしらねーぞ

ネコ　　（ペコペコ頭を下げている）

ネコ、男　（退場）

11. 期限

男　　（そわそわとしながらダイニングの椅子に座っている。何かダンボールネコを大げさにしない方
法を考えている）

ネコ　　（巨大なダンボールの中に収納されている）ニヤー

男　　し！ええと…（ダンボールの横に、タバコを置くが逆にダンボールの大きさが強調される始末）デ
カ！ダメダメ

ネコ　　ニヤー

男　　し！し！し！なんか被せるか（退場しテーブルクロスを持ち登場し、掛ける）いやいや…

妻　　（登場）ただいま

男　　おおお、お帰り、早いな

妻　　なにしてんの？

男　　え？いや…何だろ

妻　　何これ？

男　　うん？ダンボールか？

妻　　どうしたの

男　　どうしたっていうか…拾った？

妻　　何で？

男 いやなんでーつうか

ネコ ニヤー

妻 え？

男 ニヤー

妻 え？

男 え？

妻 とにかくどけてよこれ、邪魔だし

男 おうおうだな…(動かす)

ネコ (動く度に)ニヤー…ニヤー

男 ニヤー

妻 さっきから何、ニヤーって

男 ニヤニ？

妻 え？

男 え？

妻 変な人

男 お前アレだよな…動物好きだったよな

妻 えゝ

男 好きじゃん、ほらあのネの付く動物とかさ

妻 ねずみ？嫌い嫌い

男 ねずみじゃなくて、ねずみじゃないよ、あれ動物か？ほらもっと、ネの付くポピュラーな

よゝ

妻 ね、ね、ね…熱帯魚？

男 あえて？しりとりにチャンピオンお前？

妻 何？ネコ？

男 そうそうネコだよ、好きだよなお前、ネコ

妻 うゝん、どっちかって言うと、犬派？

男 犬だよなゝ

ネコ ワン！ワン！

妻 え、何？それ？

男 え？

ネコ (段ボールから手足、頭を出す)ワン

妻 ギャー！何これ？

ネ コ ワン！

妻 ワンって？え、段ボール？え？何これ？

男 何だろうなあ

妻 何だろうって、拾ってきたのあなたでしょう

ネ コ わん！あん！あん！

男 あ、犬か？犬だこれ、犬だよな、お前

ネ コ あん！あん！

男 犬だ、犬、お前の大好きな犬だフリスビーねーか？試しに投げてみよう

ネ コ あんあん！

娘 (無表情で牛乳を入れた皿を持た登場し、ネコに飲ませる)

妻 おかえり

娘 どうしたの、この段ボール

男 いや…なあ

娘 かわいい段ボールだね(無表情で撫でる)よしよし

ネ コ ゴロニヤ〜ゴ、ゴ、ゴロニヤ〜ゴ

男 (咳ばらいをする)

ネ コ ワン、ワン、ワンワン！

娘 飼うんでしょう？この段ボール

妻 ええ…まず、これが、何なのかは、きりさせない？

娘 なんでもいいじゃん、かわいいし、飼おうよ

妻 でも…

男 いいじゃねーか、娘がここまで言っただ、認めよう

妻 認めようってあなたが勝手に持ってきてぞんじゃん

ネ コ あんあん！

娘 (撫でる)ゴロニヤ〜、ゴ、ゴロニヤ〜

妻 もう…仕方ないわね、美世子が世話するならいいよ

娘 する！

男 しっかりな！

娘 部屋に連れてくね(ネコと退場)

男 子供ってのは、動物が好きだな…うんうん

妻 はー

男 悪いーな、変なもの拾ってきて…

妻 美世子がいいならいいんじゃない

男 うん…あのよ…

妻 うん？

男 オレもいろいろ考えてよ…

妻 うん

男 やっぱ、アレだ、オレな、お前のこととか、ミー子の事とかいろいろ考えると、アレだ、オレがここに
いるのは不自然だ、ジグソーパズルみてーなもんがあつてよ、はまんねーのに、無理くりはめ
てるみてーな、そんな違和感だ、だからオレは近々出てく…

妻 どこに

男 どこだっていいよ、お前らのためにもオレのためにも、それがベストだ、なあ、ただ、一ヶ月、そ
こまでかかんねーかもしれねーけど、あと少しだけ、ここに置かせてくんねーかな、今ちよつと、
やりかけの事があつてよ、それ終わったら、きれーさっぱり出てくから、もうお前を悲しみますこと
はしねー、だから頼む

妻 …

男 何かは言えねーけど、みんなのためになることだ…だから

妻 いいよ

男 本当か！

妻 うん…この間は、ゴメンネ

男 何が？

妻 いろいろ言つて

男 いいさ、本当のことだ、お前が謝ることじゃねえー

間

妻 見つかるといいね…

男 え？

妻 本当に

男 …ああ

妻 …ごはんまだでしょう、何か作るから（退場）

男 …

BGM

男、ベッドの空間で、原稿用紙に向かって書いている。書き上げ…

男

（辺りに撒き散らした原稿用紙を集めながら）2010年、何の前触れも無く、キリストは復活した！しかし人々は誰も彼がキリストとは知らない。なぜならば、キリストの生まれ変わった姿はネコだった。そうキリストはネコである。

ネコの姿で猫達の寸劇が始まる。

ネコ1妻、ネコ2弟、ネコ3（キリスト）Ⅱパ

ネコ1（目が見えない感じで登場）誰か私にペティーグリージャムを分けてはくたさいませんか、何日も食べていません、かといって水道水ではお腹を下します、ですから誰か、私にペティーグリージャムを分けてはくたさいませんか、缶切りは持っています、ただ開けるべきペティーグリージャムが無いのです、缶切りは持っています、がばっと開けないタイプの場合だとあれなので、一応缶切りは持っています、ただ、ほお張るべきペティーグリージャムが無いのです、それが無いのならうまい棒でも構いません、うまい棒私大好きです、誰か、うまい棒かペティーグリージャムを

ネコ2（走って登場）ペティーグリージャムが何だって、どこだどこだ

ネコ1 いえ、ここにはありません、ここにあるのは缶切りだけです

ネコ2 なんじゃそれ！走ってきて損したよ、紛らわしい奴だね！これでも喰らえ（うまい棒で殴る）

ネコ1 痛い、痛い、痛い、これ、私のうまい棒！

ネコ2 オレんだよ！

ネコ1 ああ、でもこんなにぐちゃぐちゃで、これではうまい棒ではなく、うまいだけの粉だ、あああ、ああ…

ネコ2 うるせーよ、バカ野郎（首を絞める）

ネコ3（登場）そんなことはやめなさい！

二匹一瞬止まるが、無視

ネコ2 このこの

ネコ3 無視しないでください、アーメン

ネコ12 アメ？

ネコ3 いいえ、アメはありません

ネコ12 じゃなんだよ今の

ネコ3 これは祈りの語尾です。言葉の最後にアーメンというだけで、神と対話が出来るのです。神秘的になるのです

ネコ2 なんだそれ

ネコ3 試しに言ってみてください、あなたの好きな言葉の最後にアーメンと

ネコ1 うまい棒 アーメン、たこやき味、アーメン！おおーおお
 なんてないなってない、なんだおあって

ネコ3 いいえ(懐からうまい棒のぞこ焼き味を出す)これを

ネコ1 (受け取り)ああこれは：アーメン！やったあーたこ焼き味だ(食べる)

ネコ3 アーメン：あなたもしかして目が？

ネコ1 ええ、流行病で視力を失いました

ネコ3 そうですか…

ネコ2 聞いただけかよ

ネコ3 そちらのあなたは足が？

ネコ2 ああわりーよ

ネコ3 そうですか

ネコ2 やっぱ聞いただけ？

ネコ3 じゃ(退場)

男 ネコとして復活したキリストは数々の奇跡を起こした。目の見えない人を見えるようにして

ネコ2 いやいや

男 足の不自由な人の足を治し

ネコ1 治ってねーよ

男 大麦のパン粉と二匹の魚でだしを取り、本格的なそばを打った

ネコ3 (お椀を持ち登場)へい、お待ち

ネコ2 職人じゃん、それ

男 キリストネコは、そうやって神の教えをネコの世界に広めた。

ネコ2 アーメン(退場)

男 しかし、所詮はネコである。脳みその小さいネコ達に、キリストネコの言うことはうまく伝わらなかつた。それどころか、語尾にアーメンとつけても、奇跡が起らないことに激怒した役人ネコによって、キリストネコは裁判にかけられた

ネコ全員 またたびの刑に処す！

男 キリストネコは三日三晩またたびをかがされ、その後バカになった。自分が何者であったかを忘れ、その面影を無くした。それでも時々、とてもかなしくなった。

ネコ3 私はバカになりました。くるくるパーになりました。何かやるべきことがあった気がします。が、思い出せません。たいていどうでもよく、ふわふわした心持です。それでも、そう例えばこんな月のキレイな夜などは、土管の片隅で、不意に涙があふれるのです。コンクリートが冷たくて泣くのかもしれませんが、お腹が減って泣くのかもしれませんが、それとも、もっと他に理由があるのかもしれませんが、わからないまま涙が出ます。この先、私が不思議に思った事は何一つ説明されないような、そんな途方も無い悲しみかもしれませんが、神様、私は、何を間違えたのでしょうか？

ネコ (登場し、キリストネコにうまい棒を渡す)

ネコ1 (うまい棒を食べながら) うまい…(泣いてしまう)

男1 (登場) すばらしい…

ネコ、ネコ1 (退場)

男 いやまだ途中なんだけど…

男1 私感動いたしました

男 ラストが結構いいんだよ

男1 いやー、ふむふむ、ふむふむ、いやー！先生やりましたね、おめでとうございます、いえ、ありがとうございます

男 大丈夫かこれ

男1 傑作ですよ、ベストセラー間違いなし、ネコがキリストにねえ

男 この間、ネコ拾ってな、その辺からこらイメージネイションってやつ？

男1 ですか、ですか、いや、すばらしい、それでは先生いきますか、せーの

男、男1 万歳、万歳、万歳！

男1 いや、いや

ネコ (登場)

男1 うん？何？し、し

男 お前今お客さんなんだからあっち行ってろ、し！

ネコ (隅へ)

男 しかし我ながらよく書けたと思うんだ、だって作文も…

男 (電話がかかってきたようで) ちょっと失礼します…もしもお疲れ様です、今先生の所で原稿をはい、傑作ですよ編集長…え、え？そんなそれないでしょう…でも…わかりました、はい、はい (深いため息)

男 …どしたの？

男1 …

男 菊池？

男1 それが

男 何、何、何、どした

男1 いやー参りました

男 どうしたの？

男1 今編集長から電話で…

男 噂のかたぶつ編集長なんだ、早く傑作読ませろってか

男1 実は以前にも我が社の経営が苦しいと…

男 おう、それをおれの傑作でがっとな

男1 そのつもりでいままで進めて来たのですが…

男 何だよさっきから、歯切れがわりーな、どつした本当

男1 ほんの今です、会社の手形が不渡りを出したらしく、このままでは倒産だと…

男1 ええーええー

男1 申し訳ございません

男1 これどうなんの、ええー、この傑作

男1 悔しいです、私悔しいです、先生からこんな傑作原稿をいただいた矢先に、会社が倒産だなんて

男1 ちよ待てよ、おれにも予定がさくいままで世話になったなって、現金バンとよそっいう…えええ、何とかしろよ菊池

男1 なんとかしたいんですが

男1 なんかあんだろ方法が、プロだろお前

男1 (思いつくが自分で打ち消す)

男1 何だ

男1 …ひとつだけ

男1 あんのか？

男1 しかし…

男1 言ってみろよ

男1 仮の話ですが…今回の不渡りは印刷会社への300万の支払い分です、ですから仮にどこからか、300万を工面し、支払ができれば倒産は免れます

男1 300万

男1 今回のような話が出ると、どこの銀行からも融資を受けることは不可能でしょうし…結局その金が無ければどうにもなりません、やっぱりダメなんです

男1 待て待て待て、じゃあれか？仮に300万あれば、倒産もなしで俺の傑作は

男1 世に問うことができます、先生も儲かる、私も儲かる、読者は満足する

男1 だよな、だよな

男1 悔しいです、300万がないばかりに、こんな傑作をベストセラー間違いなしの傑作を、出版できないうち、ああ人生とは理不尽だ

男1 待て、もっかい整理するぞ、その300万があれば、おれには3000万、だったよな

男1 少なくとも

男1 理不尽だ、そりゃ理不尽だ、誰考えたって理不尽な話だ

男1 しかしそれが現実なんです、どこにも300万は

男1 (考え)ちよっと待ってろ

男1 先生何を、先生？

41 男1 (食器棚の辺りを探し)あった、あった

男1 先生それは？

男 待て、待て、ええと（通帳残高を見る）けっこう貯めたなあいつ

男1 先生まさか

男 ここに300万ある

男1 先生いけません

男 やるんじゃないねー、貸すんだよ、だってそうだから300万ねーばかりにだ、3000万フィには出来ねーだら、なあ、金つてのは、黙って置いといても増えない、先行投資してもんが必要なんだ

男1 さすが先生、ありがとうございます、では早速銀行に（退場）

男 あと印鑑か（探す）

ネコ ニヤア

男 なんだよ、邪魔だよ

ネコ ニヤ、ニヤ！

男 邪魔だよ、あっち行け

ネコ （男の前に立ただふさがる）ニヤ、ニヤ

男 どけ

ネコ ニヤア

男 邪魔すんな！

ネコ …

男 あった、あった（印鑑を見つけ退場）

ネコ ニヤアー

13. 会食

妻、娘、弟、パパ、ダイニングにパーティーのような飾りつけをしている。
パーティー的な料理をテーブルに並べる

「田中さん、おはようパーティー」と書かれた大団幕を張る。

その後、みんな隠れる

男の声 ただいま！（登場）なんだ、誰もいねーのか？

4人（登場し）サプライズ！

クラッカーを鳴らす

男　なんだ、なんだ？

弟　びっくりした？

男　するよ、何だこれ

弟　実はみんなで話し合ってたさ、よく考えたら僕ら兄さんを責めるばかりで、折角元気になったお祝いしてなかったでしょう…

男　それは…まゝな

弟　それで今日はささやかなお祝いを！

男　ええ！いいよそんなの

弟　座って座って

男　ええ、わりーな、なんか（見回し）あ、あなたも

パパ　来ちゃいました！

男　すいません、なんか、悪いですね、みなさん（大団幕を見て）ああ、おはようパーティーね…なんだ、追い出しパーティーじゃねーの？

4人　（固まる）

男　冗談だよ冗談、サプライズ！

4人　サプライズ！

男　うまそうだな、食おう、食おう

シャンパン、ジュース等を注ぐ

BGM

弟　それでは、乾杯の前に、兄さんからスピーチを

男　ええ？

みんな　スピーチ！

男　欧米か！お前ら…：はいはい、それでは一言、ええと、本日は、みなさん大変ありがとうございました、す、身に余る光栄です。ええ、高木さん、恵子と美世子をよろしくお願いします、恵子、今までありがとう、ヒロシ、かみさんと仲良く、早く子供作れ、なんならオレが手伝ってやる、なんつって…あと、美世子、なんつーか、幸せになってくれ…：そんな感じで乾杯！

みんな　乾杯！

シヤンパンを開ける

男 食おう、食おう…

外から声 こんばんは、お届け物です

妻 何だろ？(退場)

男 うわ、オレの苦手なもんばっか…って冗談だよ、食おう、あ、分けますか？

妻 (登場し) はんこだって…あれ、どこいったっけ？

男 どした

妻 宅急便…はんこがね…

男 これか(ポケットから出す)

妻 ありがとう(何気なく受け取り退場)

適切な会話をして下さい

妻 (小包を持ち登場) あなたに

男 オレ？みしてみ…ベルグループ？食器セットだって…頼んでねーよ

妻 変ね

娘 スーパーの懸賞、この間出してたじゃん

妻 ああ、みんなの名前借りて出したんだ…ふくんほしい？

男 いらねーよ

妻 じゃもらうね(置き)

男 食おう

妻 でもどうして印鑑持ってたの？

男 え？

妻 どうして？

男 ああーちよつとな

妻 ちよつとって何？

男 ちよつとはちよつとだよ、オレだって印鑑くらい使うことあるだろう

妻 ふくん

弟 もしかしてあれ？アパートの契約とか？この間探してるとか言ってたじゃん

パパ 決まったんですか？

男 おうおうおう、まあ似たようなもんだ…うん

妻 (何かしらの違和感を感じ、食器棚の辺りを探し出す) 無い

パパ 無いつて何が

妻 定期用の通帳

パパ え？

妻 ここにおいたはずなのに

パパ どっかにしまい忘れたんじゃないの？

妻 うんうん、この間満期になって銀行に行ってここに

弟 ええ

妻 あなた、知らない？

男 (後れを見るが誰もいない) 俺？何で？

妻 ただ聞いているの、知らないかなって

男 いや〜

妻 これ、通帳の印鑑だし…

男 ええー、ふう〜ん

弟 兄さん何か隠してる？

男 何で

弟 兄さん隠し事するとき大抵そうやって腕組みするから

男 そうか？ええ〜

弟 で、どっなの？

男 なあ〜

弟 なああつてなんだよ

男 実はちよつとな、ある事の為に、借りた、うん、借りたつつか貸した？

妻 誰に？何のために？

男 だからある人がとっても困っててな、ある事のために必要だっていうから、貸したの、一時的に、うん、すぐ戻ってくるから、大丈夫

妻 通帳は？

男 (ここ、ポケットから出す)

妻 (ひったくるようにして中を見る) 300万って…何に使ったの

男 だから、オレが使ったわけじゃねーよ、貸したの…食おう、チキン、チキン

弟 チキンじゃなくてき、きちんと聞かせてその話

男 上手いねヒロシ、チキンだけに、きちんとしてが？

弟 誤魔化さないで

男 だから…詳しくは話せない訳よ、男と男の約束でき、大丈夫、心配すんな…

娘 ふふふ

弟 どの世界に300万も貸して、家族に話せないなんて虫のいい話があんの、いいか

ら話してよ

男 だから…もう長くなるし

弟 聞くよ

パパ 全部吐け！

男 吐けて…はいはいはい、わかりましたよまあもうな完成したしいいか、うん、実は、今度オレ作家デビューすんだよ

全員 え？

男 オレの話題でもちきりだった頃、それに注目した出版社の男がいてな。菊池っーんたけど、その菊池が「先生、小説を書いてください」って菊池曰くな、オレみたいな経験、バックボーン、持った人間は世界広しと言えども、お前のヒロシじゃねーぞ、世界広しと言えども、オレしかいないっーわけだ、そんなバックボーンを持ったオレに小説を書いてくださいって頭下げてきたで、お前らには黙ってたけど、本出すから…黙ってて悪かった、この通り（頭を下げる）

弟 続けて

男 おうおう、原稿は昨日完成した、そして今日だ、菊池に読ましたらもう感動しちゃって、さあ印刷だ、出版だ、ベストセラーだって矢先、菊池の会社が不渡りを出した、聞きゃ300万の支払いが滞ったばかりに、倒産の憂き目だっていうじゃねーか。悔しいだろ、悲しいだろ、ここにオレの傑作が、出しゃベストセラー、確実な原稿があるのにだ、300万のはした金が工面できねーばかりに、出版をフイにする、理不尽だ、こんな理不尽な話はねーな、そんなこんなで、オレの本が出るまでの、ほんの一週間か二週間の間、貸したって話、わかる…なんだお前らポカーンとしちゃって、え？

パパ 退職した校長先生の所に、男が訪ねてきて「こう言ってます」「先生、これまでの教員生活を振り返って本を出しませんか、30年間色々なことがあったでしょうから、そんな経験は読者の胸を打つはずです」校長先生は快く引き受けます、本が出来上がった矢先男は、会社の経営が苦しいので、自費出版のような形で最初に本を出し、売れたらマージンに上乘せして印税を支払うと言い、校長先生はお金を支払います。その後、男との連絡は一切つかなくなります

男 え、なんで

パパ そういう詐欺なんです

男 詐欺？へ、今そんな詐欺もあんだ、ま校長はな退職金とかあるかな

パパ 似てると思いませんか

男 何が

パパ 今の田中さんのお話と

男 どこが、

パパ 本を出すとかが経営が苦しいとか

男 全然違うよ、だって校長なんてのは「ごまんと居るだろ、俺はほら世界広しといえど、もうバックボーンが…ええ？」

男1 (登場) もしもお疲れ様です。今入金しましたので、はい、確認お願いします。はいよろしくです。

ネコ (登場) ニヤア

男1 うん？ダンボール？ええ？

ネコ ニヤ、ニヤ、ニヤ

男1 し、し！

ネコ ニヤ！

男1 なんだよこいつ？ええ？あれ、お前、あいつんとこのアレ？

ネコ (ネコ耳頭巾を男1に被せる)

男1 何何？

ネコ 返せ

男1 え、喋った？

ネコ 旦那のお金返せ

男1 はあ

ネコ いいから返せ！(襲い掛かる)

男1 やめろって、やめろって、やめろって！なんだよ

(押しつける)

ネコ (男1の足にしがみつく) 返せ

男1 放せよ

ネコ 嫌だ

男1 放せ

ネコ 嫌だ

男1 放せって！(振りほどく)

ネコ 旦那のお金返せよ！

男1 なに喋ってるんのお前、本当気持ちわりーな

ネコ あのお金は大切なお金だ、お前にみたいな奴に渡せるお金じゃないんだ、返せ！

男1 あのなら

ネコ お前にわかるのか、旦那の気持ちがお前にわかるのか？

男1 金ほしかったんだろ

ネコ 違う違う違う、本当はお金なんかほしくないんだ、本当は

男1 何言ってるの3000万？とかその気になってじゃんあいつ

ネコ お前はなんにもわかってない、旦那はな、旦那は、理由はほしかったんだ、目的がほしかったんだ、誰も待ってない星に生まれて、ようやくやることが見つかったんだ、何それ

男1

ネコ 読んだか小説、最後まで読んだか、キリストネコってのは自分のことだ、自分をキリストにたとえるのは正直どうかと思ったけど、でも、あのキリストネコはな、誰にも必要とされないあのネコは、それでも最後にみんなの幸せを願うんだ、幸せってなんだかわかるか？幸せってのは誰かを特別に思う事だ、誰かに特別だと思われる事だ、そんな特別が沢山出来ますようになって、みんなを幸せにしたいんだよ旦那は、邪見にされても無視されても、いなきやいいって言われても、そんな、そんなキレイな心もわからない奴にあのお金を渡すわけにはいかない

男1 あのなくバカじゃねーの、冷静になれよ、誰が、一体誰が

弟 あんたの書いた小説なんか読むんだよ！

男 言うね、お前も

弟 だってそうだよ、よく考えたらわかるだろ…

男 お前、オレはあれだぞ、バックボーンがよ

弟 ！どんなバックボーンだよ、お前にどんなバックボーンがあんだよ？

男 それは

弟 都合悪くなったら逃げて、なんの責任も取らないで逃げて、ただ10年間ふて寝してただけの最

低な男にどんなバックボーンがあるんだよ

男 …

妻 ヒロシさんもう

弟 駄目だよ姉さん、こんなの駄目だって…あんた300万のはした金って言ったよね、じゃあそのはした金、今すぐここに出してみる

男1 金なんてもうねーよ、みりゃわかんたろ

ネコ 小説は

男1 は？

ネコ あの小説はあるだろ、あれだけでも返くれ、頼むよママに見せるから、ミーちゃんにも、ヒロシおじちゃんにも、高木さんにも見せるから、そっしたらきつと

男1 あれ？

ネコ 頼むよ、なあこの通りだよ

男1 あれね、重いから捨てちゃった、だってクソつまんねーんだもん

ネコ この野郎！(襲い掛かる)

男1 (ネコをけり倒し、ダンボールの部分をめだやくだやにする)

ネコ (ダンボールが取れて素肌があらわになる、ひどい虐待の痕がある)

男1 (頭巾を取り) あらら、何でダンボール着てるのかと思ったら、ひどいな人間ってひ

どね

ネコ ニヤ

この家には、この家にはスプーンがねーのか！

妻 …捨てたの

男 へ？

妻 あの日全部捨てたの…

娘 ふふふ

男 そっか

娘 ふふふ

男 笑うな、ミー子

弟 何で

娘 ふふふ

男 笑うな、ミー子

弟 何で目なんか覚ましたんだよ！

娘 ふふふふふ

男 ミー子、ニコ笑うとこじゃねえ、ニコ怒るとこだ、オレぶん殴って、メタメタにして、怒るとニコだから、そんな風に笑うな！

娘 ふふふふ

男 無理か

4人 (静かに退場)

14. 睡眠

男 思い出した…今頃思い出しちゃった…オレが眠っちゃまう前の事。あの時も、やけに辺りが静かだよ。時間がゆっくりと流れてるみてーで、オレ目閉じたんだ。目玉つぶれるんじやねーかってぐらい力込めて目を閉じて、念力でよ、時間戻せねーかなって…必死で、スプーン曲げの時みてーにあん時の何十倍の力で、目玉つぶって、強く強くつぶって、念じて、時間戻せねーかなって(強く目を閉じる)

軍艦マーチが流れる

娘登場

男 いいか、ミー子よく聞け、父さん、これからお仕事行ってくる、子供が来ちゃいけない仕事だ、わかるか？

娘 わかる！

男 よーしいい子だ…そうだ、これやろう。(ペロペロキャンディーを出す) お前の大好きなペロペロキャンディーだ、うれしいか

娘 うれしい

男 それなめて、じっとして待ってるな、あのキャンディーなめおわる頃には帰ってくる、出来る

か できる

娘 よーしいい子だ、じゃ、行くから、あれだ、絶対何にも触んなよ、危ないから、な、危ないってわかるか

るか

娘 死ぬこと

男 そうだ、偉い、いい子だ、じゃ、待ってる、何にも触らないで、ここ、じっとして、な、出

来るか

娘 出来る

男 いい子だ！じゃ、待ってる

間

男 ミー子

娘 うん？

男 嘘ついた

娘 うそ？

男 オレ、ミー子に嘘ついた…今言ったこと全部嘘だ、オレが行くのは仕事じゃねえ

娘 じゃ、ミー子も行く

男 それはできねー

娘 どうして

男 どうしてもできねー

娘 …

男 ミー子を連れて行けたらどんなにいいだろうって思う、ずっと思ってた、でも出来ねーんだ…そのキャンディーがなくなってもオレ戻ってこねーな、にせ、これから4連ちゃん5連ちゃんだ、ミー子のことなんか忘れちゃうに決まってる…だからしばらくして心

細くなったり、何か怖いことが起きたら、そんなとこいねーで、さっさと車飛び出して、警備の人に泣きつけ、パパのバカって、パパのうそつきって…オレの言いつけなんか律儀に守んなくていいんだ、わかるか？

男 つまりあれだ、オレが言いてーのは、いい子じゃなくていいんだ、何も我慢しないでいい、出来るか

娘 出来る

男 本当に

娘 うん

男 オレはミー子が病気だなんておれは信じねーよ、ミー子は何でも我慢して周りに遠慮して違うよ

男 いいんだ、わかってる…わかってるって言わなくてごめんな！

娘 聞いてもいい

男 うん

娘 眠ったの、私のせい？

男 バカ

娘 ごめんね

男 バカ、そんなわけねーねえだろ、そんなこと思ってたのか、全部オレのせいだ、ミー子はなんにも悪くない、わかるか

娘 …

男 わかれ！わかれ！わかれ！わかれ！わかれ！ミー子はな

娘 なんにも悪くない、わかるか？

娘 わかった

男 本当に？

娘 本当！

男 そうか…よかった…じゃオレ行くぞ（退場しかけ）

娘 パパ

男 うん？

娘 なんでもない、呼んでみただけ

男 ミー子、これだけは忘れんな、これから先もうお前に悪いことは起きねー絶対に起きねー

娘 どうして

男 どうしてって…そういうのは、そういうのは、オレで打ち止めだからだ！（強く目をつぶる）

軍艦マーチUP

暗転

男、ベットへ

娘、室内へ

明転

15. チャンピオンの朝食

娘

翌朝。パパはあのベットで眠ったまま起きてこようとはしなかった…病院で検査をしたけど、眠った理由はやっぱりわからない。そして私たちは元の生活に戻った。あの朝。パパが眠ってしまった朝。テーブルには不思議な形に曲がったスプーンが置いてあった。家にはいはずのスプーンは、懸賞で当たった食器セットの中にあって…
このスプーンを見るたび、私は、おかしくて笑ってしまう…

暗転

おわり